

サトリの  
ココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、  
仏教に興味を持つ人が増えています。  
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——



日蓮宗常寂光寺住職  
長尾憲佑さん

第58回

私は京都の常寂光寺というお寺の長男として生まれました。自然に囲まれた境内、裏山などを駆け回って育ち、幼少期から花や植物に興味を持っていました。高校卒業後に上京、玉川大学農学部に進学。卒業後、実家の寺に戻り、師匠である父のもと勤め始めました。

明治期以降は庭も建物もかなり荒れた寺でしたが、祖父の代から手入れをするようになり、今では景勝地として国内外から多くの方々が訪れてくださるようになりました。とはいえ、当初は庭に関しては素人。大学で植物について学

んだ知識に加え、庭木について猛勉強しました。そのうち庭師さんたちも私の熱意を理解して、ともに庭作りができるようになりました。今では私が庭師の“親方”でもあります。

### 地形や庭木を利用して 本当の自然に見える庭に

お寺の庭というのと、日本庭園をイメージする方も多いでしょう。でも日本庭園は、心地よい空間に見えるように人間がコントロールしたもの。私の寺の庭には、いかにも日本庭園という場所とはほとんどありません。

私は、山の地形やもともと生えている庭木を利用して、自然に見えるように心がけています。本当は手を入れていても、あまり人の手が入っていないように見える庭です。要は樹木の交通整理。不要な枝や草を最小限に取り除くことで、見る側からは静寂で自然な雰囲気を楽しめ、樹木にとっては寿命を長く保つことができます。

庭作りを始めて感じたことは、樹木を育てるのは子どもを育てることと同じということ。どちらも長い目で見てあげることが大切です。目の前の問題を解決することはもちろん大事ですが、もっと先の大きなことも視野に入れておかないといけない。今すぐのことだけで判断しないことが、先々の成長や幸福につながるのです。

自分にとって不都合なものも含



左上／庭は夏には深い緑に包まれる。右上／重要文化財にも指定されている多宝塔。左／第二次世界大戦後、独身を余儀なくされた女性たちの存在を後世に伝えるべく建立された「女の碑」。

めて「自然」。庭も子育ても、それ  
を忘れてはいけないのです。

### 静寂に包まれた 自然の庭を楽しんでほしい

庭は3月ごろからコケの色が変わり、春の訪れを知らせてくれます。桜から新緑にかけて美しい季節です。夏には緑がぐつと深くなり、木陰に入ると涼やかな風がスーッと吹き抜けます。秋になると境内は一面、紅葉で赤く染まります。庭には赤くなる「イロハモミジ」と黄色くなる「オオモミジ」の2種類があるので、赤、オレンジ、黄色の見事なグラデーションが楽しめます。そして冬は細い枝がうっすら雪化粧。繊細で美しい風情が漂います。

四季折々に美しい自然の庭は長い時間が作り上げたもの。インスタントではない本当の自然を感じ、楽しんでいただければと思います。

## 子育ても樹木の世話も 長い目で見守ることが大切です

ながおけんゆう 1960年生まれ、京都府出身。京都・嵯峨野にある日蓮宗常寂光寺の長男として生まれる。玉川大学農学部に進学し、育種学研究室にて植物の品種改良などを学ぶ。大学卒業後は京都に戻り、2007年より常寂光寺住職に。現在は京都花蓮研究会の理事も務めている。常寂光寺／京都府京都市右京区嵯峨小倉山小倉町3 <http://www.jojakko-ji.or.jp>